

施策番号	2401		
施策名	京都らしいすまい方の継承		
概要	伝統的な京町家をはじめとする既存住宅の保全・活用の促進や、京都らしいすまい方を引き継ぐ新たな住宅の普及促進を図ることにより、京都らしいすまい方を継承する仕組みを構築する。		
担当局・部室	都市計画局・住宅室	共管局・部室	
上位政策	24 住宅		
施策に関する 主な分野別計画等	京都市住宅マスタープラン		

施策の評価

1 客観指標評価

指標名		平成 29年度	平成 30年度	令和元年度評価					
				前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウエイト
1	「京都らしいすまい方」をテーマとした「住育」及び「住教育」に係るセミナー等の参加者数(人)	-	-	200	183	120	152.5%	a	1.00
2	-	-	-	-	-	-	-	-	
3	-	-	-	-	-	-	-	-	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	
5	-	-	-	-	-	-	-	-	
6	-	-	-	-	-	-	-	-	
		b	c	客観指標総合評価				a	

2 市民生活実感評価 *この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問		平成 29年度	平成 30年度	令和元年度回答						有効回答 者数	評価
				そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう 思わない	そう思わ ない			
1	長く大切に使える住宅が増えている。	c	c	53	171	271	75	37	607	c	
				8.7%	28.2%	44.6%	12.4%	6.1%			
2	-	-	-							-	
3	-	-	-							-	
4	-	-	-							-	
5	-	-	-							-	
		c	c	市民生活実感調査総合評価						c	

3 総合評価(客観指標総合評価＋市民生活実感調査総合評価)

B	施策の目的がかなり達成されている						
	重み付け	☒ 客観指標	a	☐ 市民の実感	c		
(重み付けの理由) 客観指標が、京都らしい住まい方を継承する仕組を構築するための取組状況の結果を具体的に数値で示しているため						平成30年度	C
(原因分析) 客観指標総合評価 ☒ b評価以上であり、施策の効果が客観指標に表れている。 ☐ c評価以下であり、次の原因が考えられる。						平成29年度	B
(原因分析) 市民生活実感調査総合評価 ☐ b評価以上であり、施策の効果が市民の実感に表れている。 ☒ c評価以下であり、次の原因が考えられる。 ・住宅の改修は長期間を要すること、改修の変化や効果が一見して分からないものもあることなどから、「長く使える住宅が増えている」という設問に対する回答では、「どちらともいえない」が約半数を占め、昨年度と同様、c評価となったと考えられる。							

今後の方向性の検討

<この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		令和元年度事務事業 評価結果における 目標達成度評価	担当局
		平成30年度 決算額	令和元年度 予算額		
1	「平成の京町家」の普及促進	0	0	—	都市計画局
2	三世代同居・近居住宅支援モデル事業	9,828	0	—	都市計画局
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					

* 予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

<今後の方向性>

- ・すまいスクールや住宅の省エネルギー化に関する親子イベント等を通じて、家族の絆や地域とのつながりを大切にしたり、子どもたちが家の中で学び、すこやかに育つ住まいのあり方を創造する「住育」や「住教育」の取組を進めることにより、幅広く「京都らしいすまい方」について市民に考えてもらうことで、普及啓発を進める。
- ・産学官の連携による平成の京町家コンソーシアムを京都の住文化の継承を目的とした京都住文化コンソーシアムに改編し、生活文化の視点を加え、幅広い取組を進める。
- ・長く大切に使える住宅が増えているとの実感の増加に向け、上記の取組を通じて、旧来の住宅に比べて物理的、社会的な寿命が向上していることを積極的に市民にアピールする。

施策名	2401	京都らしいすまい方の継承					
指標名	「京都らしいすまい方」をテーマとした「住育」及び「住教育」に係るセミナー等の参加者数（人）						
担当課	住宅政策課		連絡先	2 2 2－3 6 6 6			
1 指標の説明							
家族の絆や地域とのつながりを大切にした暮らしや，子どもたちが暮らしの中で学び，すこやかに育つ住まいのあり方を創造する「住育」及び「住教育」に関する「京都らしいすまい方」をテーマとしたセミナー等（学校教育の場で行われるものを除く。）の参加者数							
2 指標の意味			3 算出方法・出典等				
「京都らしいすまい方」への関心や普及状況を測る指標			出典：事業担当課（住宅政策課）調べ				
4 数値							
	前回数値 平成29年度	最新数値 平成30年度	推移	数値	目標値 根拠	達成度	
数値	200	183	17人減	120	年4回開催×親子15組（30人）を目標とする。	152.5%	
	全国順位	中長期目標			備考	平成29年度をもって，「平成の京町家」の補助金交付や普及啓発が終了したことにより，新しい指標に変更	
		数値	目標年次	達成度			根拠
数値							
5 評価基準		6 基準説明			7 評価結果		
達成度（最新数値／目標値）が a：達成度100%以上 b：達成度85%以上100%未満 c：達成度70%以上85%未満 d：達成度55%以上70%未満 e：達成度55%未満		達成度100%以上をa，以下15%刻みで評価			平成29	平成30	令和元
					-	-	a